

行の女支たつる、地獄の歯車は金子刃はよく輪承てゐる、
 陰謀の首魁を討つたのである。一冊を讀んで、
 海軍省の内幕に對して、
 のつて、
 實情を言へば、
 四野をのぞく、
 の對面して、
 の精進して、
 なる、
 八木は、
 應答して、
 財團法人協調會大阪支所

財團法人協調會大阪支所

の起は八木擁護の爲てはない、彼等の陰謀を齎懲せんがためであ
 ると主張してをられるのである、彼等は八木君が葬られると自分達
 も葬られるのだと云ふ同類意識から二三の者が云々といふが齎懲派
 の幹部は百五十名以上で八木と没交渉に大活動を起されたのである
 兵中央委員會の決裂は全然彼等に責任ある
 彼等は八木が自職しても會員が減らないと言明してをつたが事實は
 夫れに反對して齎懲派は廠内に目を逐うて増加するので彼等の狼狽
 は一通りてなかつたらしい、そこで彼等はあせりにあせつて一擧に
 八木を屠つて此の氣勢を殺がんと企圖したのである即ち五日の大坂
 毎日新聞に現はれた記事が夫れである、彼の記事は刷新派の森下默
 君が本部の川村主事の諒解を云々と言明して毎日新聞へ原稿を持参
 したといふ事は毎日新聞の記者が本部川村主事の面前に於て言明し
 たのである、あんな記事が出さへせねば私も再起の決心は起さな
 かつたし又將來はイザ知らず第三、第五、第六支部の代表者と雖も